

素材研究 (海外)

シント・マルテンス・ラーテム(ベルギー)



月曜日を除く毎日公開されているオーイドンク城の庭園



シント・マルテンス・ラーテムの中心に聳える瀟洒な教会(※)



散歩や自転車巡りで楽しむシント・マルテンス・ラーテムの町並み(※)



質の高いサービスで定評のあるオーベルジュドゥパシェール



多くの森や自然が残されているレイエ川河畔(※)

「レイエ川の真珠」と讃えられるオーイドンク城(※)
(※)は©Toerisme Leiestreek

安らぎの心をもたらず、芸術の村「フランダーズの巨匠たち」で脚光

ベルギー・フランダーズ地方でブルージュと並ぶ北方ルネサンス発祥の地として知られるゲントの南西約10キロに位置するシント・マルテンス・ラーテムは、JATAによる「ヨーロッパの美しい村30選」にも名前を連ねるなど、優美な芸術の村として注目が高まっています。

田園風景が醸し出す理想郷の姿

ヨーロッパでは19世紀前半、農村や田園風景などをテーマに絵画を描く画家の多くが都市部を離れて自然の豊かな郊外へ移り住むようになります。フランダーズ地方では、のちに「シント・マルテンス・ラーテム派」と呼ばれるようになる芸術家村(コロニー)が形成され、独自の芸術活動も展開されました。その活動は、19世紀末に移り住んだ第1世代から、印象派の影響を受けてフランダーズの光を描いた第2世代を経て、第1次世界大戦勃発後にキュビズムや表現主義を通じて新たな時代を表現した第3世代へと引き継がれてきています。

画家らが描いたフランダーズの田園風景と人々の姿は、鑑賞する側にも平穏な心をもたらし、くれるものです。そうした光景が守られているシント・マルテンス・ラーテムは、21世紀に入った今も訪れる人々に安ら

ぎを与える理想郷の姿を維持しています。フランスからベルギーへ流れ込むレイエ川の河畔に位置するシント・マルテンス・ラーテムでは、船の航行や河川管理などのための改修工事に芸術家らが反対し、多くの森や自然がそのまま残されました。

2018年から「フランダーズの巨匠たち」

古い教会や村役場があるシント・マルテンス・ラーテムの中心部からレイエ川沿いに10分ほど歩くと、「オーベルジュドゥパシェール」に辿り着きます。ミシュランガイドなどでも紹介されているホテルは、レストランも様々な受賞歴を持ち、宿泊食事ともにクオリティの高いサービスが提供されています。

レイエ川の真珠と言われるオーイドンク城は、シント・マルテンス・ラーテムから6キロほどで、オンシーズンの日曜日には城内を見学することも可能です。現在も貴族が住む城には、代々受け継がれてきた家具や肖像画があり、歴史の重みを実感させられます。広大な庭園は月曜日を除く毎日公開されており、かつての厩がレストランになっているので、ランチを楽しむこともできます。

ベルギーでは、ネーデルランド絵画の巨匠ブリュゲルの没後450年に当たる2019年と前後して、2018年から2020年まで「フランダーズの巨匠たち」と銘打たれた連の企画展やイベントが開催される予定で、シント・マルテンス・ラーテムも脚光を浴びることになりそうです。